

飯田市歴史研究所
16.08.02
飯田市
歴研ニュース

News Letter

No. **83**

The Iida City Institute
of Historical Research

2016年8月2日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0002
長野県飯田市上郷飯沼3145
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iih@city.iida.nagano.jp



第14回飯田市地域史研究集会

飯田藩と地域社会

今回の研究集会は「飯田藩と地域社会」をテーマにします。近世の下伊那で最大の領主だった飯田藩に焦点をあて、幕府や藩の政治と学問・文化の問題を中心に、幕藩権力と地域とのかかわりについて考えていきます。一日目の講演では幕府と地域との関係に注目し、3つの報告では、飯田藩の領地での政策や、その下での学問・文化の様子を見ていきます。二日目の研究報告や飯田町さんぽとあわせ、ぜひご参加ください。

8月27日(土) 9:30 ~ 17:00

講演

- ◆幕藩権力と地域社会(仮)
藤田 覚(東京大学名誉教授)

報告

- ◆近世後期の飯田藩政—その展開と課題—
千葉 拓真(飯田市歴史研究所研究員)
- ◆堀家旧蔵古書を中心とする
飯田文庫の蔵書について
加藤 みゆき(前飯田市立中央図書館長)
- ◆近世における飯田の学問と文化
竹ノ内 雅人(東京大学助教)

討論・意見交換

会場 飯田市公民館2階展示室
(飯田市吾妻町139)

資料代 500円(2日間共通)※高校生以下無料
主催 飯田市・飯田市教育委員会

関連展示を

飯田市立中央・上郷・鼎図書館で開催します

- ・飯田市立中央図書館 8月27日(土)~9月22日(木・祝)
- ・飯田市立上郷図書館 8月23日(火)~9月20日(火)
- ・飯田市立鼎図書館 8月27日(土)~9月21日(水)

8月28日(日) 9:00 ~ 12:00

報告

- ◆座光寺の「歴史に学び地域をたずねる会」
活動報告
片桐 直夫(歴史に学び地域をたずねる会副会長)
 - ◆変わる結婚式の形態
—昭和10年から現代まで—
村松 孝子(飯田女性史研究会会長)
 - ◆飯田・下伊那の村社会研究に向けて(仮)
羽田 真也(飯田市歴史研究所研究員)
 - ◆満蒙開拓青少年義勇軍の創設と展開
原 英章(飯田市歴史研究所調査研究員)
- 水路と歴史をめぐる飯田町さんぽ

※事前の申し込みは不要です。多くの方のご参加をお待ちしています。



飯田・下伊那の歴史と景観 その2

南宮峡の景観 阿南町^{おども} 御供



南宮大橋から天竜川を眺める。左が阿南町。右が泰阜村。

私の父が高等学校の漕艇部員だった昭和30年代、県大会出場をかけた南信地区のボート大会は3校で争われたのだという。伊那谷からは、阿南高校が唯一の出場校であった。かつて阿南高校のボート部員が漕艇を練習していた御供一帯は、明治時代には南宮峡と呼ばれ、天竜川の通船の港としての役目を担っていた。昭和11年には飯田線が温田駅まで開通し、



明治期の南宮峡(提供：阿南町公民館)



現在の御供(提供：勝又正義氏)

吊り橋の南宮橋を介した対岸の御供は20戸ほどの集落となっていた。終戦間際の昭和20年に、千葉大学付属病院（県立阿南病院の前身）が疎開すると以後、病院街として栄えた。一方で上流に泰阜ダム（昭和10年）、下流に平岡ダム（昭和26年）が完成すると、筏や帆船による水運が途絶え、代わって遊覧船が運航され行楽地として賑わいを見せる。しかし堆砂等により船の運航もなくなり、国道151号の完成によりバス街道を外れると街の賑わいもしだいに消えていった。この間に南宮橋は3度架け替えられ、現在は平成7年に竣工し、信濃の橋百選に選ばれた斜張橋の南宮大橋が夜間はライトアップされ、静かに水面に姿を写している。（研究員 樋口 貴彦）

新刊
案内

飯田市歴史研究所 年報⑭

昨年度の飯田市地域史研究集会の特集「飯田・下伊那の歴史的景観」を中心に、地域史研究の成果を掲載しています。



写真提供：萩原 清

飯田市歴史研究所 編 B5判 300頁 定価1,800円

【特集】 飯田・下伊那の歴史的景観

吉田 ゆり子 趣旨説明

伊藤 毅 地域史と歴史的景観

マッテオ・ダリオ・パオルッチ

From Scenic Beauties to Heritage Territory
〈審美的景観から遺産としての領域へ〉

鷺尾 恒久 小菅の里から

下平 博行 座光寺・麻績の里の歴史的景観

本島 和人 「防災」を通しての景観の再認識と継承

松島 正幸 飯田丘の上と段丘景観

木下 光 「景観みつけ隊」と
「和田宿修景事業」の活動報告

野牧 和将 下栗集落の景観について

樋口 貴彦 企画展「飯田・下伊那の景観と人々」によせて

飯田と横浜

多和田 雅保（調査研究員・横浜国立大学）

飯田市歴史研究所の研究員を退職してから8年が過ぎました。現在は横浜の大学に勤め、日々教員養成に追われています。横浜市は437平方キロメートルの面積の中に370万人以上の人口を数え、658平方キロメートルの中に10万3000人余の人々が暮らす飯田市とはきわめて対照的です。最近ようやくこちらの生活にも慣れてきましたが、最初は環境のあまりの違いにとまどうことばかりでした。

とはいえ歴史をさかのぼってみると、飯田と横浜の間にはきわめて重要な共通項があります。ともに近代以後、蚕糸業の隆盛に支えられて発展してきたということです。横浜開港資料館には蚕糸業の関係史料が多く収蔵されていますが、そのなかには飯田にまつわる史料群もいくつか含まれています。

教員養成という職務上、小学校から高校までの歴史教科書に目を通す機会が非常に多いのですが、よく読むと養蚕や製糸に関する説明がたくさん盛り込まれています。古代から近世にかけても多いですし、近代以後の記述は蚕糸業についての一定の知識なしには十分な理解ができないようになっています。ところがほとんどの学生は、養蚕・製糸の技術過程について、まったくといっていいほど知りません。まあそのままだも教員採用試験に合格して、小・中・高の教壇に立つことはできるのでしょうが、やはりそれではいけませんので、大学での授業（日本史の概論）のなかで1回分を必ず割いて、蚕糸業（綿業も）の具体的な方法について、図や写真などを交え、なるべくいいいに解説するようにしています。

私自身まがりなりにも飯田で史料に触れていたため、生産の初発の段階から海外輸出までの一連の流れをおおまかにイメージでき、日々の教育活動でとても役に立っています。とはいえこれまで蚕糸業を本当の専門にしたことはなく、自分の見解なんぞは随分おぼろげで怪しいものだと思います。そろそろ飯田の製糸家や生糸商の動向にも目配りしながら、幕末に忽然と出現した近代都市横浜の研究に本格的に取りくんでみようかと、本気で考え始めているのです。



稚養共同飼育(鼎村)昭和21年頃
（『須山計一画集』新葉社刊より転載）

整備された平岡ダム建設犠牲者火葬場跡への通路

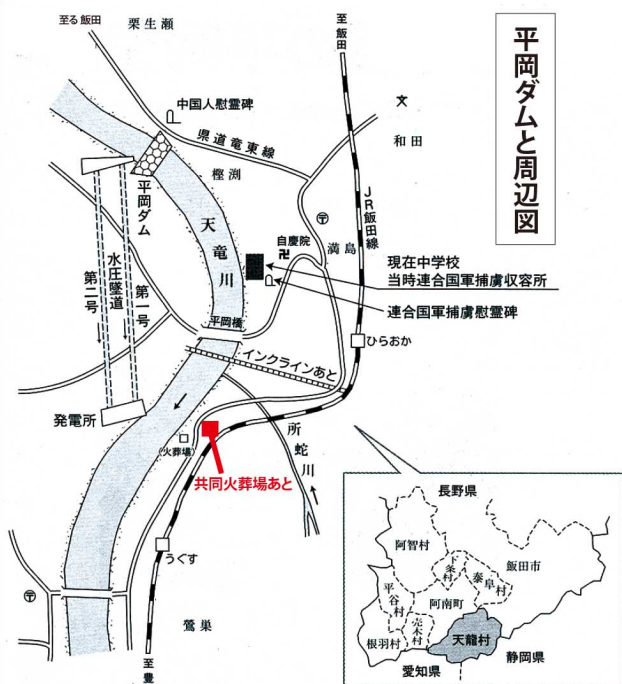
天龍村にある平岡ダム建設犠牲者の火葬場跡は、平岡から鶯巣(うぐす)へ通じる道路のオトナシ地籍から10分ほど山道を登った山中にあります。登り道はかなり急坂で今までは足に自信がない人は見学することができませんでした。そのためこのほど天龍村が通路に階段と手すりを設置する工事を行いました。その結果、以前に比べても登りやすくなりました。



設置された階段と手すり(火葬場跡登り口)

平岡ダムは、国策により1940(昭和15)年6月に着工し、途中資材不足のため中断を経て戦後1952(昭和27)年に完成しました。大戦中ということもあり、ダム建設工事は日本人だけでなく、強制動員を含む朝鮮人、強制連行した中国人、連合軍捕虜など数多くの人びとの労働によって進められました。過酷な労働・生活環境により多くの犠牲者が出ました。中国人62人、連合軍捕虜56人、朝鮮人犠牲者数はいまだに確定できていません。犠牲者の多くは村人が以前から使用していたこの火葬場で焼かれました。この急な山道を亡き仲間の棺桶を担いで登った人々はどんな思いだったのでしょうか。

天龍村では、通路の整備に引き続き、火葬場跡の整備や案内板の設置を検討しているとのこと。平岡ダム・発電所をはじめ付近にある4基の犠牲者慰霊碑、捕虜収容所だった天龍中学校庭、インクライン跡など今も残る戦争遺跡を訪ねることにより、戦争の実態を学ぶことができます。(調査研究員 原 英章)



飯田アカデミア2016 第78講座

「文化的景観」としてみた歴史的町並み

10月1日(土)

第1講 10:00~11:30

「文化的景観」という地域の新しいとらえ方

第2講 13:00~14:30

「文化的景観」から歴史的町並みをとらえ直す

歴史的町並みの価値付けと保存は、主に伝統的建造物群保存地区制度などによって、建造物の保存を中心に行われてきました。平成16年に新しい文化財として設けられた「文化的景観」は、地域を住民の生活・生業に主眼を置いてとらえ直すもので、町並みとその保存にも新しい見方を提供しつつあります。この「文化的景観」という見方から町並みをいかに読み直すことができるでしょうか。(宇治、岐阜、温泉津などを事例に)

講師 清水 重敦さん

(京都工芸繊維大学准教授)

会場 飯田市役所C棟3階会議室

(飯田市大久保町2534)

受講料 500円(資料代)

※1講義のみでもご参加いただけます。

※受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。
当日参加も可能です。

庁舎位置図



定例研究会

「伊那自由大学受講生の社会階層」

開催日: 9月24日(土)

報告者: 清水 迪夫(市民研究員)

時間: 14:00~16:00

場所: 飯田市歴史研究所 研修室

※定例研究会はすべて公開で行っています。どなたでもご参加いただけます。

飯田・上飯田の歴史 シリーズ第1回

地域史講座

「近世の森本家と飯田城下町の商人」

松尾新井森本家文書には、野原家や福住家など、近世の飯田町を代表する商人たちからもたらされた書簡が数多く含まれています。これらを読み解くことで、森本家と城下の商人とがとり結んだ経済的・文化的な関係を探ります。

開催日: 9月17日(土)

時間: 14:00~15:30

報告者: 多和田 雅保(調査研究員・横浜国立大学)

会場: りんご庁舎3階会議室

(飯田市本町1丁目15)

※どなたでもご参加いただけますのでお気軽にお越しください。

歴研ゼミ

8月・9月の予定

受講生募集!!

スタッフとともに
歴史を学んでみませんか。

場所: 歴史研究所 研修室

近世史ゼミ 担当: 千葉 拓真(研究員)

8月2日・16日 / 9月6日・20日(第1・第3火曜日) 19:00~20:40

近現代史ゼミ 担当: 田中 雅孝(調査研究員)

9月10日・24日(第2・第4土曜日) 10:00~11:40

※8月は研究集会のため休講です。

思想史ワークショップ 市民の皆さんが自主的に学び合う場

8月3日・17日 / 9月7日・21日(第1・第3水曜日) 19:00~20:40

わが町の建築史ゼミ 担当: 樋口 貴彦(研究員)

8月12日(金) / 9月15日(第3木曜日) 18:30~20:00

※8月は都合により第2金曜日に開催します。9月は通常通り第3木曜日開催です。

満洲移民研究ゼミ 担当: 本島 和人(調査研究員)

第62回 8月6日 / 第63回 9月3日(第1土曜日) 10:00~11:40

ゼミ・ワークショップの詳細につきましては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

開所時間: 午前9時~午後5時

休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

オーラルヒストリー2

『戦争と養蚕の時代をかたる』

書評会を
開催しました

『戦争と養蚕の時代をかたる』書評会が5月20日歴史研究所で開かれました。

会には、語り手・聞き手・読者がお顔を見ながらの書評会となりました。主催者としてはオーラルの方法や編集についてのご意見をいただくためと思い、コメント4人をお願いしましたが、天龍社での糸取り・八路軍へ従軍した語り手の発言は、改めてオーラルの持つ迫力を参加者に与えてくれました。今後も本を出したら書評会をすることが大切だということを認識しました。



販売所

- ・飯田市歴史研究所・飯田市美術博物館
- ・飯田市役所2階行政資料コーナー

飯田市歴史研究所 編集・発行
B5判 並製 294頁

本体価格 1,100円

